

## 平成15年度 岡山市総合政策審議会 第1回環境・安全部会における主要な意見

1 日 時 平成15年10月10日(金)

午後2時～午後4時

2 場 所 岡山市役所 3階会議室

3 出席者 委員:[別掲委員名簿参照](#)(5名欠席)

岡山市:小林環境局長、繁定環境施設部長ほか関係各部長、次長、課長など

4 傍聴者 0名

5 会議概要

平成15年度岡山市総合政策審議会第1回環境・安全部会の開催

小林環境局長の挨拶に続き、委員の変更の紹介が行われた。

奥田部会長が議長で議事に入り、説明に対する質疑応答、提言等が行われた。

(議題)一般廃棄物(ごみ)処理手数料等の改定について

6 主要な意見、質問と市の説明

質問:ごみ処理原価が年々上がってきているがなぜか、設備に金がかかるのか人件費なのか。

回答:新しい施設が増えたのと、処理がダイオキシン対策で高度化したことが要因である。

質問:処理施設がほぼ整ったとなると、将来的に処理原価は段々下がる可能性があるのでは。

回答:これからの維持管理コストを考えると、新施設の瑕疵期間が切れた平成16年

度には点検整備費用がかさんでくるが、それ以降処理量が増加すればコストは横ばいしないし若干下がってくるのではと推定している。しかし、今回の改定では、平成14年度決算額での根拠であり、この水準まで下がることは当分考えられない。

質問: 受益者負担ということは賛成です、100%にすることもやむを得ないと思いますが、処理想定はどうなっているのか。今後20年どういう風に処理量が増えていくのか。整備する施設の処理規模の想定が大切だと思うが。

回答: 一般廃棄物処理基本計画で目標年次を定め、ごみ量予測を行い施設整備を行っている。平成21年頃までは施設整備を行わなくても既存施設で対応できる見込みで処理をしている。

質問: イニシアルコストの30%の暫定措置ですが残りはどうなっていくのか。

回答: あるべき姿は負担率100%と考えているが、そうすると大幅な値上げとなり、過去の例からも5割以上の改定は行っていない。そういうことで緩和措置を考えた。今回値上げしてもまだ処理原価は80%で20%は一般財源いわゆる税収から持ち出しをしている形のため、市としてもコスト縮減を図りながら将来的には100%という考えである。

質問: 手数料徴収の従量制を現行100キロから10キロに変更は、業者に有利な方法か。

回答: 従前は切り上げていたのが10キロ単位で四捨五入になるのでサービス向上につながると考えている。

質問: 今まで取っていなかったイニシアルコストを含めてという議論は通るのか。

回答: 全体の処理費用を考えて算入した。他都市調査でも6割に達している。

質問: 値上げ論があって政策論がない、ごみの政策をどうするのかがないと納得してもらえないのではと感じます。

回答: 減量化については毎年、一定規模の業者の皆様へ減量計画書を提出させているが、すべての事業者の方に減量、リサイクルの呼びかけはまだできていない。手数料改定が確定したら協力、お願いを周知徹底します。

質問:資源化ごみに分別して出せば、コストが下がるということか。値上げすると同時に減量化とか資源化への努力の呼びかけもするのか。

回答:事業系ごみの場合、資源化ごみについては民間業者のルートで流しているの  
で、資源化していただければ市の処理施設へ流れないことになりコスト縮減につながって  
くる。そういうPRは当然行う。

質問:40%途端に上がるというのは説明のしようがないのでは

回答:一定の施設整備をやってくるなかで、引き上げは逆にやってこなかった。一定  
の整備ができた中で今度は新たな今後の展望の中でイニシャルコストも求めていか  
なければならない時代と考えている。事業系ごみのところを縮減して一般財源に回し  
て市民に還元する、ごみ処理施設そのものは一般のごみの処理を前提として、その  
後事業系の方々の努力の中で市は引き受けていく、今回を契機として今後の方向性  
を出そうということをお願いしている。

質問:広報か何かで同時に説明はされる努力はするのか。

回答:市広報誌はもちろん、排出事業者の方にもお願いと協力の文書等を出してお  
願いを賜りたいと考えている。